



## 漁港の風景 黒潮のはなし

私たち土佐清水ジオパークのスタッフが常駐している足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンター“うみのわ”からは竜串湾越しに雄大な太平洋を見ることができます。スタッフとなって1年が経ちますが、初めてビジターセンターから竜串湾を見た時の感動はいまだに薄れることはなく、仕事の合間に沖合を行き交う船や湾内を走るグラスボートを見たり、寄せては返す波の音を聞いたりするのは心の癒しになります。この竜串湾は、100種類以上のサンゴや400種類近くのウミウシを始めとしてたくさんの生き物が暮らす豊かな海となっていて、国が定める海域公園にも指定されています。これは沖合を流れる黒潮が運んできた暖かい海水のおかげ。

黒潮の名前の由来は、その色。黒っぽい藍色に見えるのはプランクトンが少ないために透明度が高く、海面から入った光が何物にも反射することなく海中に吸い込まれていくから。その源は亜熱帯域で、赤道の北側を西向きに流れる北赤道海流がフィリピン島にぶつかり北に向かう流れが黒潮となります。流速は最大で時速7~8km(3~4ノット)、流れの速い部分は幅100km、深さ1000m、流量は毎秒5000万トンにもなる世界最大級の潮流です。ちなみに流量だけ見るとアマゾン川の25倍、四万十川の10万倍だとか。黒潮は、一度東シナ海に入り南西諸島沿いに北上した後、奄美大島付近で東向きを変え太平洋に戻ります。その後高知沖を過ぎて、紀伊半島辺りから南向きを変える

大蛇行の時期と向きを変えず沿岸を流れていく非大蛇行の時期が10年ごとに繰り返されます。ジョン万次郎が小笠原諸島の鳥島まで流されたのも黒潮が蛇行していたからだと言われています。そうでなければ福島沖を東に流され直接ハワイに行き着いていたかもしれません。

黒潮が足摺岬沖の水深100~200mの瀬にぶつかると、海の底の栄養塩が巻き上がり、暖かい海水と混ぜり合いプランクトンが育ち、メジカやサバなどが豊富に捕れる好漁場が作られます(図1)。これこそが、大地と黒潮の出会いによる土佐清水の暮らしの豊かさの表れのひとつです。土佐清水ジオパークのテーマ「一黒潮と共に生きる一漁師が生まれる大地の物語」を引き合いに出さずとも、土佐清水での暮らしには黒潮は重要な存在。清水漁港には日々の黒潮の流路が掲示されているのも、そんな街だからこそ(図2)。

ここ最近の黒潮は陸から少し離れた沖合を流れているようで、観光案内のキャッチコピーにあるように黒潮が最初に接岸する・・・とは様子が違いますが、流路は日により、月により、年により少しずつ変化するので時期が来ればまた接岸を見ることができるとは、楽しみです。

(ジオパーク専門員・土井恵治)



図1 黒潮が足摺岬沖の瀬にぶつかることで好漁場がつけられる

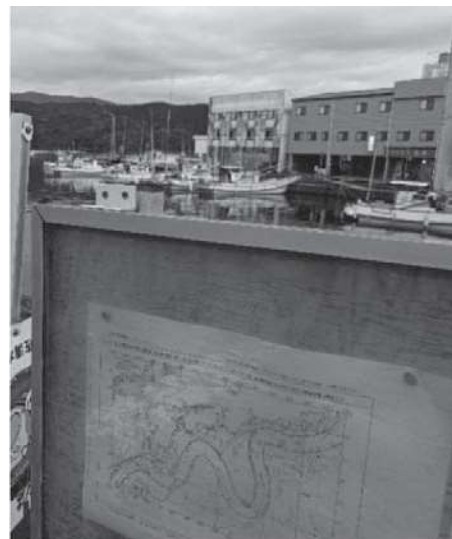


図2 清水漁港には日々の黒潮の流路図が掲示されている

### イベント情報!

土佐清水ジオパーク  
認定一周年 記念講演会

日時：2022年9月25日(日) 場所：中央公民館  
詳細は次号にて!

### 予告報

ジオガイド養成講座

秋から開講予定!  
詳細は後日お知らせします。

発行

土佐清水ジオパーク推進協議会 〒787-0450 土佐清水市三崎字今芝 4032-2  
TEL 87-9590 MAIL geopark@city.tosashimizu.lg.jp

WEB

